

春だいこんの品種生態と収量について

1 試験のねらい

春だいこんの栽培のポイントは適品種の導入と保温資材の有効利用である。最近では根強い消費に支えられて、晩抽性と低温肥大性を兼ね備えた品種育成が盛んであり、作型変換がみられ始めている。そこで抽台の難易と実用形質が異なる4品種を選定して、保温施設及び資材を組合せた栽培様式と播種期をかえた場合の品種生態と栽培適性について、57年から59年に検討したので概要を報告する。

2 試験方法

供試品種にサカタ交配天春、みかど交配改良春王、長岡交配耐病総太り、長岡交配四月早生を用いた。播種期と栽培様式別に表-1の処理を行った。

表-1 処理と保温資材

年度	播種期 栽培様式	播種期						備	考
		12	1	2	3	4	5		
57	ハウス	Ⓐ	Ⓐ						・透ビ(01)+梨ビ(005)+ホーリーシート(002) ・梨ビ(005)1/9・2/10+ユウラック(孔15%,3%)+ホーリーシート ・ホーリーシート
	トンネル		Ⓐ ₂	Ⓐ ₂	Ⓐ ₁				
	マルチ				Ⓜ	Ⓜ			
	露地						Ⓡ		
58	ハウス	Ⓐ	Ⓐ					・透ビ(01)+酢ビ(005)+ホーリーシート ・梨ビ(005)+ユウラック(孔3%)+ホーリーシート ・梨ビ(005)+ホーリーシート ・ホーリーシート	
	トンネル二重			Ⓐ ₂					
	〃一重				Ⓐ ₁				
	マルチ				Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ		Ⓜ
59	ハウス	Ⓐ						・透ビ(0.1)+[透ビ0.05+タフベル(Tf)3000N+酢ビ(S)0.05]+木 ・2月は透ビ二重,3月は透ビ+タフベル(Tf)+ホーリーシート ・ホーリーシート	
	トンネル			Ⓐ ₂	Ⓐ ₁				
	マルチ					Ⓜ	Ⓜ		Ⓜ

ハウスはパイプ利用の南北棟で、床幅120cmの株間40×30cm3条千鳥、トンネルとマルチは床幅90cmの株間40×30cm2条千鳥を基本とした。施肥量は全層基肥の方法で、a当たりN1.5, P₂O₅1.5, K₂O1.5kgとし、高度化成肥料を用いた。ほかは慣行に従った。規模は1区60~80株の1区制(59年のハウスは2区制)。

3 試験結果及び考察

花芽分化と抽台は耐病総太り、春王、天春、四月早生の順に早く達し、12月と1月は大差がなく、2月以降5月10日迄は播種期につれて日数は短縮し、5月25日と6月は再び長い傾向であった。生育期間は12・1月は80~120日、2・3月は58~84日、4~6月は44~66日であり、天春と四月早生の肥大は早く、特に天春の早太り性が優れていた。

作型別の適応性は、12・1月のハウス栽培では四月早生と天春の作柄は安定していたが、他の2品種は不能とみられた。57年は春王でやや適応性があったが、59年は厳冬のため酢ビが被覆では天春の抽台抑制が限界であり、透明ビの効果著しかった。58年は酢ビを用いたことと離

春化管理が不足したことによる。2・3月のトンネル栽培では四月早生と天春の作柄は安定していたが、59年の2月は越冬のため他の2品種では不能、57年の3月はユーラック1枚のため耐病総太りが不能であった。4・5月の露地(含マルチ)栽培では59年の4月で耐病総太りが不能であったほかは安定していた。6月は生育及び収穫が高温期のため、病害が多発し生育や品質は乱れており全般に不能であった。

以上のことから、四月早生と天春は3月のマルチ・露地栽培を除いて、12月から5月迄の作期で栽培が可能であり、春王は2月以降の播種期で栽培は安定し、耐病総太りは3月以降で抽台防止や初期生育を促進することにより収穫が可能であると思われた。

4 成果の要約

四月早生と天春は抽台及び肥大性が優れており、12月10日から5月10日迄の播種で安定栽培が可能であり、春王は2月以降、耐病総太りは3月以降で収穫が可能である。

(担当者 佐野分場 塩谷民一)

表-2 保温時間と極値(12月11日~31日)

年 度	種 類	AMeDAS		ト ン ネ ル 内						
		気 温 ℃		気 温 ℃		温 度 別 時 間 h				
		最 高	最 低	最 高	最 低	5℃以下	<10℃	<15℃	25℃以上	30℃<
57	V 0.05	245.3	45.6	742.8	136.9	13.3	156.3	295.3	111.8	74.5
58	S 0.05	314.6	22.0	567.5	136.4	6.6	189.8	354.2	55.4	14.8
	V 0.05			681.4	74.3	105.7	259.9	334.5	94.1	46.1
59	V 0.05+Tf	183.2	-79.9	703.4	61.8	130.0	272.8	336.3	94.8	50.0
	S 0.05			618.8	54.5	149.0	282.4	346.7	69.4	16.2

注 気温は積算値、透明ビニル(V)・酢ビニル(S)・タフベル(Tf)

表-3 品質と被覆資材(抽台、収穫まで日数)

年 度	種 類	天 春			改 良 春 王			耐 病 総 太 り			四 月 早 生		
		抽 台	収 穫	評 価	抽 台	収 穫	評 価	抽 台	収 穫	評 価	抽 台	収 穫	評 価
57	V 0.05	125	95	◎	106	97	○	98	105	×	145	96	◎
58	S 0.05	94	114	×	80	109	×	75	114	×	124	106	○
	V 0.05	124	112	◎	103	133	×	94	122	×	136	114	◎
59	V 0.05+Tf	125	117	◎	103	124	×	96	123	×	138	117	◎
	S 0.05	123	120	○	94	143	×	88	136	×	134	117	◎

注 抽台:観察(茎長約5cm)、収穫:根重800g、評(適応性):◎適、○やや適、△~×不能

表-4 品種播種期と収穫まで日数及び適応性

は種	年度	気 温 ℃		日 照 H	天 春	改 良 春 王	耐 病 総 太 り	四 月 早 生
		最 高	最 低					
2.10 (T)	57	194	-22	129	69 ◎	73 ◎	77 ○	71 ◎
	58	183	-39	154	73 ◎	74 ◎	77 ○	73 ◎
	59	109	-81	140	84 ◎	90 △~×	92 ×	84 ◎
3.10 (T)	57	292	37	160	61 ◎	63 ◎	67 △	62 ◎
	58	235	48	126	58 ◎	61 ◎	65 ◎	60 ◎
	59	189	-32	154	63 ◎	69 ◎	71 ◎	65 ◎
4.10 (T)	57	382	138	149	48 ◎	51 ◎	59 ○	53 ◎
	58	407	237	109	51 ◎	56 ○	58 ◎	54 ◎
	59	358	98	151	60 ◎	64 ○~△	66 △~×	62 ◎
5.10 (M)	58	485	238	176	47 ◎	50 ◎	51 ◎	47 ◎
	59	411	235	102	57 ◎	61 ◎	65 ◎	58 ◎
6.10 (M)	58	460	316	87	57 ○	? ×	? ×	58 ○
	59	502	372	50	59 ?	61 ?	65 ?	56 ?

注1. 気温・日照はは種後20日間の積算値(AMeDAS)。

2. 収穫は根重800g、適応性:◎適、○やや適、△~×不能、?生育不整。